

VI. 自学自習方法の指導（会えない時間をどのように応援するか）

遠隔学習課程は自学自習が基本です。自学自習の第一歩として、まずセンターから送られた学習素材（受講コースの教材）を使って一人の時間でも学習を進められるようにならなければなりません。例えば、教材（テキスト・音声教材）の使い方、練習方法を理解し、自力でテキストに沿って学習を進められる、必要な語彙表現を覚えていく手順を実践できる等です。そして自分の学習計画を立てることも基本的な自学自習能力の一つです。

スクーリング講師の方には、受講者の「伴走者」であることをお願いしていますが、伴走は、スクーリングの場だけではなく、受講者が講師と会っていない一人の時間にも伴走する意識を持っていただきたいと思っています。スクーリングでの自学自習方法の指導とは、講師と会っていない時間に、受講者がなすすべなく立ち往生しないように進むべき方向と進み方を示していただくことであり、講師と離れた生活の場でも学習は進められるのだという体験と自信を受講者に持ってもらうことです。

帰国者にとって日本語学習は生涯学習です。講師がいる・いないに関わらず、学習素材を活用して自分なりの学習ができるという学習観とその力が持てるか否かは、その人の日本語習得にも大きく影響します。受け身でない主体的な学習観、学習技能を持つということは、遠隔学習課程という学習をスムーズに進めるだけでなく、長期的に続く日本語学習に必要な態度であり、技能であると言えます。様々な生活場面で日本語が通じず、敗北感や疎外感を味わうことが多い受講者にとって、今まで自力ではなかなかできなかった学習技術を身につけることを通じて得られる自信は、社会で一人の自立した大人として等身大の自分に戻れるというきっかけを与えてくれるものでもあると思います。学習技術を身につけることがもたらす本当の意味を、自学自習指導の中でも意識していただきたいと思います。

以下に自学自習方法の指導の具体例を見ていきましょう。

- ア. テキストの構成を（教材の使い方や目次、索引も含め）確認しながら、各課の練習問題、自己チェックなど学習手順を説明する
- イ. 辞書で何が調べられるか説明し、辞書の引き方を練習する
- ウ. CD再生機の使い方を練習する
- エ. 自宅でも会話の練習ができるように、音声教材（テープやCD）を用いた会話練習の方法を練習する
- オ. 学習計画を立てる

ア. テキストの構成（教材の使い方や目次、索引等）を確認しながら、各課の練習問題、自己チェックなど学習手順を説明する

受講者の中には、テキストの大まかな構成を把握しないままに、学習を始めてしまう人もいます。テキストのはじめの方には必ず教材の使い方が書いてあり、テキスト学習の目標とともに、構成や練習方法が説明されています。例えば「消費生活」コースの場面会話では、店員のことばは聞いてわかればよいとしてい

るもので、受講者に発話は要求していませんが、受講者の中には店員のことばまで練習して「難しすぎる」とこぼしている人もいます。テキストの利用法・練習方法などがよくわかっていない受講者には、テキストの使い方から紹介をお願いします。また、前に学習したものがどのあたりで出てきたのかを思い出せなくて、闇雲にページをめくって探す受講者もいます。目次や索引の利用法に慣れていない方には、効率的な学習ができるよう使い方を紹介していただければと思います。特にテキスト「漢字を覚えよう」では語彙数が多いので、索引が使えれば便利でしょう。

イ. 辞書で何か調べられるか説明し、辞書の引き方を練習する

また、これまでテキストだけで学習してきた受講者には、日中辞典を使ったことがない人もいます。電子辞書の場合は機械の操作を覚えればまぼ引くことができますが、普通の日中辞典に初めて触れる場合は、引き方を練習しなければ、うまく利用できるようなにはなりません。50音順に並んでいることから始めて、濁音や促音や拗音がどのような順で出てくるのか、片仮名語の場合はどうなのか、動詞や形容詞は辞書形に直さないと見つけれられない等、初めて使う人が知っていれば、簡単に使えるようになるポイントがいくつかあります。自力で慣れていくには時間がかかりますので、効率的に自学自習をしていくためには指導が必要なところです。電子辞書の場合も、購入して使い始めてみると、辞書を引く時、日本語を、習ったことのないローマ字で入力しなければいけないと相当苦労している例が見受けられます。中には、電子辞書以外では使うことのないローマ字の勉強を始めたというような人もいます。平仮名でも入力できることを知らない受講者がいますので、そのようなときには、設定を「ローマ字入力」から「ひらがな入力／かな入力」に変更できることを伝え、一緒に電子辞書をいじっていただければと思います。機種にもよりますが、大概、「設定」というキーから「環境設定」ができ、「キーボード」や「入力設定」というようなところに進むと「ローマ字入力」と「ひらがな入力／かな入力」が選択できるようになっています。せっかく購入したのに、うまく使えなければ宝の持ち腐れですので、使用しているときの様子も観察して、適宜ご指導いただければと思います。

ウ. CD再生機の使い方を練習する

ほとんどのコースには、音声教材が付帯しており、特に「生活場面日本語」シリーズ、「日本語文法文型」シリーズ、「中国語ピンイン学習」コースには聞き取り問題が多く含まれています。聞き取り問題では特定の箇所を聞く、あるいは繰り返して聞くことが必要になりますが、それには簡単に頭出しができるCD再生機の使い方を知っていると大変便利です。受講者がCD再生機を持っているようであれば、できるだけその使い方に習熟するための練習を、スクーリングの場での活動としてお願いしています。しかし、ある程度指導していただいても馴染めない場合にはテープ対応もいたしますので、センターまでご連絡ください。(※受講者に送付している「CDプレーヤーの操作方法」を〈資料1〉として付けましたのでご参照ください。)

エ. 自宅でも会話の練習ができるように、音声教材（CDやテープ）を用いた会話練習の方法を練習する

音声教材をきちんと利用して家で学習しているという受講者でも、どのように学習したのか尋ねると、

単に「聞いた」と答える人がほとんどです。聞き取り力を伸ばす練習をするといっても、テキストを見ながら聞くのと見ないで聞くのでは難易度も期待できる成果も大きく違います。また使い方によっては一人での発話練習に音声教材を用いることができます。例えばテキストの会話部分は、問答の問いまで聞いたところで音声を止め、1) テキストを見ながら答えてみる、2) テキストを見ないで答えてみる、3) 自分のことで答えてみる、というだけでも3つの練習に利用できます。音声教材を使って勉強してくるといっても、いろいろな目的でいろいろな練習ができますから、自宅での自学自習に生かすためにも、まず講師と一緒に目的をもって練習することが大切です。テキストの音声教材が難しいという受講者には、受講者のレベルに合わせ1～2往復ぐらいのやりとり（会話）を録音機能の付いた機器（携帯電話、スマートフォン、ICレコーダー、デジタルオーディオプレイヤー、テープレコーダー）など、受講者が自宅で再生可能なメディアに吹き込むこともできます。受講者と一緒に作るなら、中国語のできない講師でも、受講生に中国語のパートを吹き込んでもらうこともできます。そして、家に帰ってからその録音を利用してどのように聞いたり発話したりする練習ができるか、作ったその場で（スクーリングの時間内に）、実際に試してみることもできます。受講者の自学自習を可能にし、また有効にしていくためには、スクーリングの時間そのものの使い方が大変重要になってきます。

オ. 学習計画を立てる

遠隔学習課程の場合、学習期間が長期に渡るので、学習計画を立てないと日々のペースを作りにくくなります。しかし、計画を立てたことのない受講者は、闇雲に学習を始めてしまいがちです。目安を立てずに学習に取りかかった場合、学習項目の理解や練習が十分ではないのに焦って進んでしまったり、逆に学習期間内に修了できなかつたりするなど、自分で学習をうまくコントロールできなくなるケースをよく見かけます。この学習計画を立てるお手伝いをスクーリング講師にはしていただきたいと思います。

遠隔学習課程を受講すると、受講者はまず、テキストや課題の他に、各コースの「受講案内」を受け取ります。「受講案内」には、「学習の進め方」として最長学習期間での学習プランが提示されています。コースにもよりますが、約2～3ヵ月単位毎に課題を提出するプランになっています。これはあくまでも目安で、各々のペースで学習を進めていって構いません。

計画を立てる際には、まず、テキストの学習項目や量を見渡させて、生活の中で学習に割ける時間などを考慮して、受講コースの終了時期を設定してみてください。その上で、1ヵ月～1週間ぐらいの単位で具体的な学習計画を考えてみると、学習を実行に移しやすいと思います。計画を考えると、スクーリング自体を長期計画の一部として組み込めば、スクーリングが一つの目標となり、学習にリズムができてくると思います。また、課題の提出を一里塚と捉えて、課題提出の期限を設定して、それを目標に学習計画を立て、スクーリングや自宅学習を具体化していくという方法もあると思います。学習に慣れていなくて大変な人の場合は、とりあえず1～2ヵ月の計画を立てて、勉強をやり始めて、無理なくできることを確認しつつ、段階的にその後の計画を立てていく形がいいと思います。

講師は、毎回のスクーリングで受講者の自学自習の進捗や課題提出の状況などを確認しながら、計画通りに行かない場合は、途中スクーリングで調整していくといいでしょう。この計画・修正という繰り返しの中で、自分自身の学習ペースやスタイルも見えてきて、受講者が主体的に学習に取り組む姿勢もできてくる

と思います。また、受講者は、日本で暮らす生活者として、家族の世話や仕事などが生活の中心とならざるを得ないことも多いと思います。これら成人学習者の学習条件を考慮し、無理のない継続可能な学習計画を作っていけるようサポートをお願いできればと思います。

自学自習のやり方さえわかれば受講者が一人で学習できるようになることも増えていくでしょう。受講者の自宅での学習を困難なものから取り組みやすいものに変えていくために、スクーリングの時間を、自学自習方法を習得してもらう時間として講師自身も意識をしていただき、個別の受講者の技能に合わせてご指導をおねがいできればと思います。

次ページに、よく見られる自学自習ができていない事例と、そこから考えられる自学自習方法の指導内容の例（上記ア～オを含む）を一覧にまとめました。こちらをご参照ください。

◆自学自習ができていない事例から考える自学自習方法の指導内容の例◆

自学自習がうまく進んでいない事例	主な要因	自学自習方法の指導内容の例
<p>A. 何をどんな方法でどのぐらいの期間で学習するか等学習の進め方がわかっていない</p> <p>B. スクーリングだけで勉強していくと思っている</p> <p>C. 課題だけやって、テキストは全然見ていない</p>	<p>遠隔課程、受講コースの学習方法が理解されていない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・センターからの送付物の確認、説明する ・センターとのやりとりの方法を受講案内でチェックする ・スクーリングの役割について説明する ・課題について（課題の役割と利用の仕方）を理解しているかどうか、確認、説明する
<p>D. テキストをあまり見てこず、どうやって勉強したらいいかわからないと言う</p> <p>E. 練習問題の解答方法が間違っている</p> <p>F. どのCDのどこを聞いたらいいかわからないと言っている</p> <p>G. CDを聞いて解答する部分が何をどう書いてよいかわからず、空白</p> <p>H. 聞き取り問題が、解答方式を無視した教科書のまる写しになっている</p>	<p>教材の指示や説明がわからない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の構成（全体／課）について確認する ・設問や解答方式が理解されているか確認する ・CDが複数ある場合、どのCDに何が録音されているか確認、説明する ・CD再生機器の操作や機能を使いこなしているか確認、指導する ・テキストに表示されているトラック番号を理解しているかを確認、説明する
<p>I. 疑問や不明点をそのままにしている</p> <p>J. 学習状況を確認すると、「はい、全部読みました」と、読むことが学習だと思っている節がある</p> <p>K. 単語を覚えるときはただひたすら書いているという</p> <p>L. 覚え方と覚えてくる範囲は事前に確認しており、本人もやったつもりで来たのだが、実際に確認してみるとあまりできていない。本人も意外そう</p> <p>M. 会話の練習をしたいというが、家では何もできないと言う</p> <p>N. 学習範囲を書く問題はほぼできているが、テキストの聞き取り問題をやってみるとあまりできない</p>	<p>基本的な学習方法が身についていない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の利用（目次、索引等）ができているか確認、説明、練習する ・辞書を引く（電子辞書含む）ことができるか確認、練習する ・周囲の人に不明なことの尋ね方、確認、練習する ・音声教材を使って練習、解答する部分が自力できているかチェックし、できていない場合は説明、練習する ・語彙、表現の覚え方の工夫と手順についてアドバイス、練習する ・自分で学習した範囲の習得度を自己チェックする方法についてアドバイスする ・音声教材を使った様々な学習方法について紹介する
<p>O. 一課の学習項目が多くて消化不良をおこしている</p> <p>P. 毎日勉強する時間がないという</p> <p>Q. 医療コースで（索引は引けるようになったのに）、引き当てた単語を覚えられないと悩んでいる</p> <p>R. 応用問題が聞き取れないとぼやく</p> <p>S. 10月の訓練校の試験を受けたいというが、やる事が多くてどこから手をつけたらいいかわからない様子</p> <p>T. やろうとおもえばできるのに、ゆっくり楽しみながらやりたいと、ほとんど進んでいない</p>	<p>学習目標、計画が立てられない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習時間と学習量の調整を行う。例えば、一日、一週間、一ヶ月等の単位で無理のない学習量を相談して決める ・学習者の力やニーズを考慮し、学習目標、内容の取捨選択を行う ・短期的な目標（例えば、次回のスクーリングまで）を立て、目標のハードルを低くする ・学習項目の学習優先順位を決める。例えば、難易度、重要項目等の基準から、受講目的や学習者の状況を見て選ぶ ・学習者の意向を尊重し、相談しながら計画を立てる

〈資料1〉CDプレーヤーの操作方法（「消費生活」コースの例）


CDプレーヤーを活用して自学自習を進めましょう!

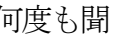

「生活場面日本語「消費生活」コース」にはCDが付いており、このCDを繰り返し聞くことで聞き取り力と発音を向上させることができます。反復練習にはテープよりもCDの方が格段に便利です。というのは、テープだと巻き戻しや早送りに時間がかかる上に、テープのどこに聞きたい箇所があるかを探すのに苦労しますが、CDプレーヤーは聞きたい箇所に瞬時にして飛ぶ(行き着く)ことができるからです。「うちにCDプレーヤーはあるけど使えない」という方はこの機会にぜひプレーヤーの使い方をマスターして練習に活用しましょう。以下に使い方の簡単な説明を挙げましたが、わかりにくいときはお子さんやお孫さんにお尋ねになってください。

1. 各CDプレーヤーのメーカーで概ね共通の記号



記号					 または 
機能 (日文)	停止	再生	早送り	早戻し	・一時停止(再生中に途中で一旦停めたいときに押す。もう一度押せば、再生に戻る)、または、 ・再生と一時停止(機能は上に同じ)
中文					

2. 聞きたいところに飛ぶには?

CDのトラック(番号のついている録音の単位)の番号は機器の窓に表示されるので、聞きたいトラックまで早送りして移動します。たとえば、消費生活コースの場合、14頁の表現練習(録音番号1-02)を聞きたいときは窓の表示が2になるまでCDを早送りします。を表示が2になるまで何回か押すか、最近では、ダイヤルを回せばトラックの早送り・早戻しが素早くできるジョグダイヤル(ぐるぐる回して動かすもの)がついている機種が多くなっていますので、このジョグダイヤルがついていたら、これを表示窓を見ながら回します。

なお、一つのトラックの頭から何度も聞きたいときは、一つのトラック再生中にを一度押して指を離すと、そのトラックの頭に戻ります。このボタンを何度も押すことで、トラックの頭から何度でも聞くことができます。また、一つのトラックの途中で、次のトラックに移りたいときは、一つのトラック再生中にを一度押して指を離すと、次のトラックの頭に飛ぶことができます。

※ 一つのトラックの途中で、少しだけ戻って聞きたいときは?

一つのトラック再生中にを押し続けると、再生箇所が少しだけ戻ります。キュルキュルという音を聞きながら、聞きたいところまで戻します。少しだけ先を聞きたいときは、を押し続けます。

灵活运用CD机进行自学吧！

「消费生活」附带CD盘，利用这张CD反复听，能提高听力和发音。反复练习时要比录音带方便多了。录音带快送快返都需要时间，而且，想查找要听的地方是很难的。CD机就可以找到想听的地方。“我家有CD机就是不会使”的各位，请活用这个机会，务必练习掌握CD机的使用方法。下面简单地说明一下使用方法，不容易弄懂时请问问孩子或孙子吧。

1. CD机各厂家的共同记号

記号	■	▶	▶▶	◀◀	或 ▶
機能 (日文)	停止	再生	早送り	早戻し	・一時停止(再生中想停一下时，按一下。再按一下时又恢复再生)，还有 ・再生と一時停止(机能和上面一样)
中文	停止	再生	快送	快返	・一时停止、·再生和一时停止

2. 想跳到要听的地方时?

CD的节段(附有号码的录音单位)号码是在机器的视窗上表示的，可以快速找到想听的节段。比如：想听「消费生活(上)」课本第14页的(录音号是1-02)时，看着视窗号2进行快送，按几次▶▶键直到出现2为止。最近，带有拨号码键(能骨碌骨碌转动的东西)快送快返，迅速选节段的机器越来越多了。如果有带有拨号码键的机器，那就可以一边看着一边调播。

还有，想听几次同一段时，按一下再生中的◀◀键，就回到这段的开头处。按这个键几次，就几次回到想听的地方。再有，在听这段时，中途想听下一段时，按一下▶▶键，就可跳到下一段的开头处。

※在听这段的中间，还想再返回一点时咋办？

正在听再生中的段落时，继续按◀◀键，就可稍稍返回。听到“吱鲁吱鲁”的声音可以返回到想听的地方。想听稍微前面一点时，就继续按下▶▶键。